整理番号	03

川崎市SDGsプラットフォーム分科会 活動報告書

提出日 2024年3月27日

分科会名	「端材「新」活用研究会」分科会	
分科会長	事業者名 別紙「活動計画書(第2号様式)」のとおり。	
	担当部署	
	担当者名	
	メール	
	電話番号	
(1)活動	報 告	
別紙「成果報告書」のとおり。		
(2)関連するSDGsのゴールとゴール達成に向けた具体的な取組内容		
別紙「活動計画書(第2号様式)」のとおり。		
(3)参加メンバー(事業者名)		
別紙「活動計画書(第2号様式)」のとおり。		

2022年度設置

端材「新」活用研究会

分科会長: NPO法人地域学習プラットフォーム研究会関東プロック連絡会



目的·趣旨

企業の生産活動において継続的に発生する「端材」を単純に廃棄するのではなく、**有効活用するモデ**ルの検討・構築を目指して活動します。

活動内容と期待される成果・効果

活動①:事例の収集

アップサイクルモデルの情報・ノウハウ等の収集。

活動②:事例の調査研究

収集した事例の調査研究。

活動③:モデル構築に向けた検討と情報発信

調査研究に基づくモデル構築に向けた検討をするとともに、研究会として情報発信を行う。

活動(4): セミナー、カンファレンスの実施

事例やモデルの研究成果等をセミナーやカンファレンスで情報 発信するとともに、意見交換を行う。

成果·効果

アップサイクルを支援するモデルを構築

関連する主なゴール







分科会イメージ

(仮) モデルイメージ



参加メンバー: 2団体

NPO法人地域学習ブラットフォーム研究会関東ブロック連絡会、株式会社ノンバーバル

<メンバー募集資料> http://www.juspa.jp/files/up_MENB.jpg

今年度の実績一覧

- 1. NECプロボノ倶楽部主導のイベントへの参画提案・出展プロデュース
- 2.分科会メンバーの活動実績公開



1.NECプロボノ倶楽部主導のイベントへの参画提案・出展プロデュース 2



TMCシステムは、試験機などの機械設計開発を行っている企業です。 部品購入時の段ポールゴミの廃棄量がとても多く、アップサイクル活動を始めました。また配線材料の廃棄も多いため、それも利用しています。







SDGSイベント in NEC玉川事業場

2023年10月28日に 開催されたSDGsイベントに TMC アップサイクルGが 出展いたしました。





TMCシステム株式会社

川崎区本町1-6-1

TEL:044-211-6551

総合テクノロジー会社

かわさきえるぼし認証

かわさきSDGs認証

プースには、たくさんの子供たちが 遊びに来てくれました。

段ポールで作った輪ゴムピストルや、 電気線材でつくったブローチなど、 出来上がったものを嬉しそうに、友達、 兄弟同士で自慢しあったりと、 微笑ましい姿が見られました。







1.NECプロボノ倶楽部主導のイベントへの参画提案・出展プロデュース 3

協力団体/川崎区盛り上げ隊!

- ●キットパスでスタンプしてデコレーションする「エコバッグ作り」
- ●川崎区大川町の工場から出た金属スクラップを再利用した「大川町のカケラで作るアクセサリ



2. 分科会メンバー/株式会社ノンバーバル活動実績1



令和4年度 SDGs達成に向けたモデル事業創出支援補助金 を活用したモデル事業

かわさきカンキツオイルプロジェクト

(株式会社ノンバーバル)

川崎市内産の柑橘類(規格外品)を中心とした精油の製造とスプレーの開発







協働事業者

- (福)川崎聖風福祉会 社会復帰訓練所
- (株)エクシト
- · (株) LiYOND
- 井上美紀
- 佐野デザイン事務所
- · Woods & Fields

総事業費 708,629円 補助金交付額 463,200円









実施成果

- 市内で収穫されずに残されていたミカンやユズを活用し、蒸留により抽出した精油をスプレーへ加工した製品を開発。
- 高津区内の学校やスポーツセンターで子どもたちが参加する皮むき体験を実施。
- 製品のラベルデザインを高津区内のデザイナーに依頼。海外EC用の緩衝材はバナナペーパーを原料とする市内産品を使用。 マスクスプレーの充填・ラベルの貼り付けなどを福祉事業所へ業務委託。

今後の方向性

• 製品は高津区の宿泊施設ロビーや都内小売店での販売を予定。本事業を通じて柑橘を栽培している農家とネットワークづくりが 出来たため、出荷出来ないB級品の持続的な仕入れ・取引の仕組みが築けた。

2. 分科会メンバー/株式会社ノンバーバル活動実績2



数据を始めている企業の80%最が効果・メリットを感じています!

技術・新製品・新サービス

R

新

たな

取

O

得

SDGsを企業と地元の架け橋に

企業事例

川崎産・規格外柑橘で作るアロマオイルで地域と絆を育む

自社事業のひとつ。souveniaromaではアロマオイルの製造・販売を手掛けています。精油をブレンドしたアロマを販売するほか、現在は川崎産の柑橘を使ったオリジナルアロマの製造販売も手掛けています。

株式会社ノンバーバル

創 業:令和2年(2020年) 所在地:神奈川県川崎市高津区坂戸2-17-7 事業内容:アロマオイルの企画・製造・販売等 代表取締役:高橋昌也 従業書数72名





社会課題

傷や形の悪さから売り物にならない豊産物のフードロス、料理後の農産物の皮等の廃棄が問題となっています。 また、「「をはじめとした様々な技術革新、市場の変化が起きていますが、中小企業においては人材不足に加えてマーケティングや広告宣伝のノウハウ、それらを得るための費用が不足しているのが現状です。

SDGs導入に向けた視点

自社製品を川崎市のふるさと納税の返礼品に登録して おり、『地元の柑橘を使ったアロマを作りたい』と考えてい ました。また、以前から自社で精油抽出に取り組みたかっ たのですが、必要な設備を整えるための資金不足という問 郷に直面していました。

SDGs の活用・取組

川崎産の柑橘を安定して調達するため、川崎市の都市 農業振興センターや農産物直売所に訪問してネットワー クを構築したり、みかん農園でみかん狩り後の皮を取り 置いてもらったり、地元の子ども向けに皮むき体験イベ ントを開催したりと様々な取録を進めました。また、自社



精油油出にかかる費用をクラウドファンディングで募集していたところ、たまたま同時期に川崎市SDGs補助金の募集があり申請し採択されたので、精油油出や材料仕入れだけなる、プロによる商品撮影や広告等の施策も行いました。

経営への効果

地域のネットワークを活用したことにより、川崎産のみかんの仕 入れルートを作ることができました。また、SOCs 補助金を仕入れにも活用して製造量を増やすことができ、クラウドファンディングの追加昇集を行うことができました。川崎産の柑橘の使用をPRしたことにより、特に市内の方からの



購入が多く、広告がきっかけで新たな仕入れ先の開拓に つながったり、補助金の対象となったこと自体がブラン ディングにつながったりと、事業の拡大に非常に役立って います。

0

SDGsを活用したい企業への メッセージ



SDGsは事業をどう盛り上げるかを考える仕組みだと捉えています。SDGsを切り口にした取組で一気に利益を出すことは難しいかもしれませんが、新しい取引や他社との協働など、機々な広がりが開待できます。

川崎市SDGsサポート施策の

活用事例

~活用企業と市担当者との対談~

SDGs補助金を知ったきっかけ

高橋昌也(以下代表) SDGs補助金は「かわさき SDGsパートナー」登録者向けのメールマガジンで知りました。

川崎市野本陽一(以下市) 川崎市ではSDGsの連成に向け て取り組む企業・団体の皆様を「かかさきSDGsパートナー」 として認証する制度を設けており、パートナー向けのメー ルマガジンでSDGs組動金をご案内しました。

代表 元々、かわさきSDGsパートナーには登録していました。 起果的に「かわさきカンキツオイルプロジェクト」と SDGs補助金のタイミングが合いましたが、最初から想定していたわけではありません。

市 正直なところ、企業の規模に関わらず、SDGsを全面に 出した企画を事業ペースに乗せるのはハードルが高く、特 に外部へのPRは大企業でも難しいと思います。その手助け をするための補助金ですので、今回のノンバーバル社様の 活用は的を射ていました。

プロジェクト予算と補助金の使い道

代表 総コストは約70万円。内配は主に製作費と広報戦略 費で、特に広報戦略にお金をかけています。

高機淳音(以下BF) クラウドファンディングも使ったの ですが、ゆずが想像以上に大人気で、開始1日で売り切れま した。補助金を使って仕入量を増やすことで対応し、結果的 に当初目標の500%を達成できました。広報戦略としては、 まずいカメラマンに商品の写真を依頼しました。やはり、プ 口が綴ると見栄え、インパクトが違います。

代表 他にはタウンニュースに広告を出しました。あと、モ デル事業として補助金が出たことで中のお墨付きのように なったのがその後の展開で非常に大きかったと思います。 実際、私は市が作成したロゴ入りのレボートを常に鞠に入 れています。

3

『SDGs達成に向けた モデル事業創出支援補助金』とは

かわさきSDGsパートナーが中心となって他の事業 者・団体等と協働して取り組み、SDGsの達成に費す るモデル事業を創出し、市内のSDGsの取組を普及・ 促進することを目的とした補助金です。



『かわさきカンキツオイルプロジェクト』 が採択された理由

市 他の事業者と協働して取り組めるビジネスモデルであること、実現可能がしっかりしていて他の企業でも再現 他があるところを高く評価しています。福祉事業者や地元のデザイナーなど、地域の事業者とコラボレーションする手法は機々な企業で取り入れることができるのではないでしょうか。

SDGsをCSR(企業の社会的責任)と捉えている企業も多いですが、それだけでは収益に結びつかず、持続可能性があり



ません。今回の事例を参考にSDGs や補助金をどうツールとして使い、事業に取り込むかという視点 で考えていただければと思いま す。

申請を検討する企業へのメッセージ

市 どんな事業をすればいいか、といった要然としたご質問には答えられませんが、どのように書けばよいのか、どんな情報が必要なのかについてはお伝えできます。

BF 私は申請にあたり市担当者に相談しながら書類を作りました。

市 今までに機々な申請書を拝見していますが、必要な内 各が書かれていない、求めている内容と違うケースが取見 されました。SDGs補助金は事業の申請なので、事業への期 いを伝えようとするあまり、SDGsの理念に除めて主知的に 記載すると、事業の実現性や解析性が申請書から伝わらな いことがあります。せっかく良い企画なのに、伝わらなかっ たらもったいないですし、ご不用な点があれば問い合わせ ていただければと思います。

BF 大学生の私でもできる簡単な申請です(笑)。

■ SDGsは医強で確定された理念があり、根拠のあるツールです。SDGsのことを考えて事業を組み立てるとか、SDGsの文脈で発信するとか、そういった思識で補助金も活用していただければと思います。

代表 行政の施罪は使っている人はとことん使い、知らない人は全く使っていません。色々便利なことがたくさんありますから、どんどん活用すべきだと思います。

,